＃）地名から想像する日本建国の歴史 （楽しい想像の日本史）

日本には、旧石器時代～縄文時代を通じて、文字はないけれども、高い文化があり、とくに、建築物など先祖から子孫に口頭で伝えられた。中国の徐福は紀元前219年、不老長寿の薬を求める秦の始皇帝の命令に従い、童男童女三千人、職人百人及び武士を引き連れて、五穀の種とシルクを船に乗せ、大船団を率いて東に向かって中国を出航した。（徐福伝説）昔、中国に呉の国（中国の3国時代に、呉の孫権が長江流域に建てた王朝222年～280年AD）というのがあった。この、呉の孫族が、戦乱の呉の国を、逃れ出て、日本の九州の南部に、到着した。（天孫降臨） 一行は、しばらく、九州南部に勢力をはっていたが（高千穂峡）、その子供は、次第に北の方に移動し（宮崎）、現在の大分県宇佐市に移動。ここには、宇佐神宮という、全国に約44,000 社ある八幡宮の総本社がある。神宮とは、先祖を祭るお宮の事。道鏡事件のとき、神託を仰ぐのに、伊勢神宮でなく、宇佐に使いを派遣した。全国の神社には、鳥居（陰門）―参道（産道）－本宮（子宮）－欄干（卵管）という、子孫繁栄の構造がある。日本には、いたるところで、神社の入り口から、男性たちが競って、本宮まで競争するお祭りの行事があるところが多い。宇佐八幡宮神託事件（うさはちまんぐうしんたくじけん）は、奈良時代の神護景雲3 年（ 769 年）、宇佐八幡宮より称徳天皇（孝謙天皇）に対して「道鏡が皇位に就くべし」との 託宣

を受けて、その真偽を確かめる為、和気清麻呂は天皇の勅使として8 月に宇佐神宮に参宮した。その後、天皇家はさらに、北上し、九州北部から、下関を経て、広島に。呉市の西方に、天応という地名の地域がある。さらに、現在の呉市が、天然の良港で、当時は、休山と音戸の間は地続きで、台風などの影響も受けず造船には最適の場所とされた。呉には、呉海軍工廠、呉造船、IHI、など、造船の伝統があり、有名な戦艦大和はここで作られた。近くの江田島に、海軍兵学校がつくられたが、江田島が兵学校の所在地に選定された理由は、軍艦の錨泊が出来る入江があること。文明と隔絶し、いわゆる娑婆の空気に汚されずに教育に専念できる環境を持つこと。気候が温暖で、安定していること。その規模ではイギリスの王立海軍兵学校、アメリカの合衆国海軍兵学校とともに、世界でも最大の兵学校の一つで、全78期から、総計1 万2433名の卒業生を出している。音戸の瀬戸は、後の平安時代後期、平清盛によって、海峡が作られた。広島には、神の島といわれる宮島がある。その後、さらに、東に、移動(神武の東征)、岡山の吉備氏を平伏させ、関西に。現在の大阪、堺市にあたるところには、土着の豪族があり、熊野から和歌山の新宮市から、北上し、奈良県の大和で勢力をはり、あめのしらすのみこと(天の下全部を支配する王)と名乗り、神武天皇が即位された。奈良の奈は、天下の中心という意味がある。_

草香
（東大阪）
宇陀
橿原
吉備（岡山）
高島の宮
安芸（広島）
埃の宮
荒坂の港
（二木島）
雄の港
（和歌山）
岡の水門
（遠賀川河口）
熊野の神邑
（新宮）
宇佐
速吸の門
（豊予海峡）
美々津